

## 臨床検査技術学科

### 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） （令和９年４月１日から施行）

臨床検査技術学科の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の達成を目指し、幅広い教養や高い専門性、倫理観を身に付けた臨床検査技師又は医療分野を中心に活躍できる人材を育成するため、以下の考え方にに基づき、教育課程を編成・実施する。

#### １．教育課程の編成に関する基本的な考え方

- (1) １年次を中心に幅広い教養と基本的な学修能力を獲得する教養科目を配置する。また、１年次から２年次に専門知識・技術を効果的に修得できるよう、学問の体系性と順次性に配慮し、その導入となる解剖学、組織学、生理学、生化学等、専門基礎科目を配当する。
- (2) ２年次以降、専門医学知識及び医療技術を体系的に学ぶため、病理学、微生物学、免疫学等の専門基礎科目を継続して設置するとともに、臨床血液学、病理検査学、臨床免疫学、臨床生理学等、基幹となる専門科目を展開する。
- (3) ２年次以降、専門分野の連関を理解し、医療分野を俯瞰する広い視点を養うため、総合臨床検査学等の包括的な専門科目を設置する。
- (4) ３年次に病院（臨地）実習等の科目を設置し、学生が地域医療の現場において、その役割と社会貢献を理解し、協調性や高い倫理観、主体性を養う機会を提供するほか、人の健康社会実現に向けたより幅広い課題解決に資する知識・技術を修得するため、生殖生理から医療に関わる科目を設置する。
- (5) 獲得した知識や技術を応用・統合するとともに、プレゼンテーション能力、課題解決能力及び自律性を養うため、演習、課題研究、卒業論文等の科目を設置する。

#### ２．教育課程の実施に関する基本的な考え方

- (1) 各授業科目について、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従い、設計する。また、到達目標、授業計画と実施方法、成績評価基準等をシラバスに明確に示し、周知する。
- (2) 医療分野を中心に社会に貢献できる主体性や実践力を培うため、演習、実習、課題研究、卒業論文等において、授業形態や指導方法の工夫を行う。
- (3) 医学知識及び医療技術を効果的かつ効率的に修得できるよう、ICTを積極的に活用する。

#### ３．学修成果の評価に関する基本的な考え方

別に定めるアセスメントプランに基づき、学修成果の把握及び検証を行い、教育、学修支援等の改善・向上を図る。